〝憧れキャンパス〟に1年通う
「立教セカンドステージ大学」から、
人気の「早稲田大学オープンカレッジ」まで

50を過ぎたら〝大学〟で学びたい

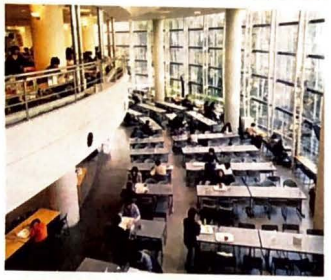
憧れていた大学のキャンパスで、学んでみたい。
趣味を究めるために、キャリアの集大成として、
あるいは未知への挑戦――
そんな思いを持ったコレカラ世代に、
今ではいろいろな大学が、門戸を開いています。
あなたにぴったりの大学、探してみませんか？

取材・文／鳥羽山康一郎、関亜希子（P50）、江本充伸（本誌・P52）
撮影／浜田一男、津藤文生（P50）

「楽しいから学びたい」歳をとれば向学心も強くなる

昔は決して勉強好きではなかったけれど、無性に何か学びたくなるということ、最近ありませんか。趣味を通じて興味を持ったことを徹底的に勉強したい、今までの仕事で蓄積してきたことを体系的に学び直したい、若い頃に勉強したかったジャンルに改めて挑戦したいなど、その動機はさまざまです。でも共通して言えるのは、歳をとるとともに「もっと勉強したい」という気持ちが強くなるということです。

実際に大学で学んでいるコレカラ世代にうかがってみると、向学心はもちろん「楽しいから」という理由が返ってきます。勉強をポジティブに楽しめるのも、年齢と経験による余裕というものでしょう。半ば強制的（？）にさせられていた若い頃の勉強とは、根本的に異なっているようです。



キャンパスに身を置くことも大学で学ぶ魅力のひとつ

ある程度の年齢になってからの学び場、というとカルチャーセンターがポピュラー。しかしここ最近は、いろいろな大学が社会人向けの講座を開講しています。

大学は、言ってみれば「知」の集積されている場。それを地域や一般の人たちにも開放し共有することも大学が持つ使命である、という考えが主流になってきました。大学が持つ社会的責任、とも言えるでしょう。大学によっては「大学院レベル」の講義を行っていて、選択次第ではかなり学びごたえがありそうです。

「エクステンション」という単語を付けている大学も数多くありますが、これは「延長、拡張」の意味。文字通り、長い期間を通じて学ぶという意識の表れでしょう。「生涯学習」は、決してかけ声だけのものではないのです。

それから、大学で学ぶことの魅力で忘れてはいけないのが、キャンパスです。趣のある大学の建物に通い、その教室で受ける授業に昔を思い出したり、憧れを実現させたり。学食や図書館の利用もできるところがほとんどですから、若い大学生たちと交流したり、コレカラ世代のクラスメイトとキャンパスライフを謳歌、ということだって夢ではありません。

大学での学び方は多種多様

大学生になる

社会人向けの特別枠を設けている大学もありますが、
ほかの選択肢と比較してハードルは上がります。
授業やゼミなど、受講内容は一般の学生と同じ。
本格的に学びたい人向けです。

- ●資格：大学入学資格が必要。入試もあります。
- ●学費：入学金30万円～、学費55万円～（年）程度。
- ●期間：編入時期によって2～4年と異なる。

公開講座（オープンカレッジ）を受講する

最もポピュラーなのがこの形式。
資格は特に必要なく、申し込めば誰でも
受講することができます。まず会員となり、
用意された講座の中から選択するのが一般的です。

- ●資格：基本的に誰でも受講可能。
- ●学費：2万円～。ほかに実費や入会金。
- ●期間、回数：1～10回、半年程度まで。

コレカラ世代に絞った講座を受ける

公開講座や通信教育などは受講者の年代もまちまち。
しかし、立教セカンドステージ大学のように、
はっきりと「50歳以上」と対象を絞った講座も。
もちろん、講座内容もコレカラ世代向け。

- ●資格：50歳以上。要高卒程度の学力。書類審査と面接。
- ●学費：入学金8万円～、学費25万円～（年）程度。
- ●期間：1年。立教の場合は、その後専攻科に進めます。

通信教育で学ぶ

大学に入学しますが、自宅で受講できる形式。
パソコンでインターネットにつないで授業を受ける
講座もあり。実際の大学キャンパスに集まる
「スクーリング」が必要とされている講座も。

- ●資格：要大学入学資格。書類審査と面接。
- ●学費：入学金10万円～、学費30万円～（年）程度
- ●期間：編入時期などによって2～4年

※上の目安は立教セカンドステージ大学のものです

コレカラ
世代向け

副総長に聞きました

立教セカンドステージ大学の意義とは

2008年4月に開講した「立教セカンドステージ大学」は、50歳以上の方を対象に、「学び直し」「再チャレンジ」のサポートを目的とした新たな学びの場です。大きな特徴は、入学試験があること。志望理由などのエッセイや面接を経て、第一期生96人が合格しました。競争率は2倍近くとのことです。

セカンドステージ大学の意義を、笠原清志副総長にうかがいました。「個人的な学びの気持ちが、自らの定年後の生き方をデザインすることにつながれば、と考えています」。地域や社会とのネットワークをいかに築くかについて学べるカリキュラムとなっています。

また、「大学の社会的責任として、シニア層のセカンドステージを設計する教育システムを持つべきです。立教がそのさきがけとなれば、と思っています」とも。

1年間の課程を終え、次年の専攻科へ進む人も半分近く。学びの情熱はまだまだ尽きないようです。

立教大学の笠原清志副総長。「定年を迎えて『職縁関係』がなくなっても、家庭や地域でリスペクトされるシニアであってほしい」と語ります。

●立教セカンドステージ大学
シニア層向けの新たな「学びの場」として開講。本科1年専門科1年。登録料・受講料年間33万円。※2009年度の受付はすでに終了しています。

(右)室伏義郎さん(60歳)は、「ホスピタリティ」について追求していきたいと語ります。(左)受講生の上江洲（うえす）時子さん(64歳)。ゼミやいろいろな委員会を通じての交流も活発とのことです。お二人とも専攻科に進学。